

光の輪花の輪ゆらぎ神々の舞台となりし草原も春

『再生』

久家 基美

一房の葡萄盗んで雲にのり逃げしは昨夜の夢にしておく

『風』

保坂 耕人

起きしなに見たる大きな旗雲の赤きかがやき水にうつれり

『長江無限』

石川 一成

どつと来たる春の疾風を棒立ちの背もて受け止む背は父ならむ

『As Time Goes By』

鈴木 陽子

西海の旅籠屋に聴く春潮の満ちくるまでの力を思ふ

『蜜の大地』

小紋 潤

正月は三日夢路に浮く船の人となりつつ朝酒を飲む

『テオが来た日』

佐佐木幸綱